

令和元年度学校評価書

北海道知内高等学校

目指す学校像	目指す生徒像
1 地域に信頼され選ばれる学校	1 礼節を尊び、豊かな人間関係を大切にする生徒
2 生徒の可能性を高める学校	2 豊かな感性と思いやりの心を持ち、行動する生徒
3 豊かな人間性を育む学校	3 意欲と根性で目標に向かって挑戦し、やり抜く生徒

自己評価結果及び学校関係者評価(A:十分である B:おおむね十分である C:不十分である D:改善を要する)

領域	対象	今年度の目標	目標達成のための評価の観点	評価	改善・充実の方策	評価
教育活動	学習指導	基礎学力の定着と向上	1 全生徒の基礎・基本の学力定着と向上が見られ、成績不振者の数を減らすことができたか。	B	基礎学力に課題のある生徒に対して、学習支援員や学級担任、教科担当からきめ細かな指導がなされ、生徒も学習に取り組む姿勢を保っている。またコース制(3学年)、国語・数学・英語・理科における習熟度別授業(1・2年)を効果的に運用することにより、進学・就職どちらにも対応できる学力の育成に努めた。 ・学習の意義を理解させ、内的な家庭学習への動機付けを高める指導を行い、家庭学習の定着を図る。 ・知高生に身につけさせたい9つの資質・能力を活用し、学力＝社会で生き抜く力の育成に努める。 ・進学希望者の更なる学力向上を図る(スタディサプリ・添削指導等) ・授業公開週間や学校研修コーディネーターの助言・校内研修等を活用し、授業改善を進める。	B
		学習習慣の定着	2 家庭学習のできる資料や課題を提示し、実行する習慣が定着させられたか。	C		
		授業の改善	3 生徒が授業を大切にする意識を育て、落ち着いた学習環境を維持できたか。	B		
			4 教員の授業力向上として、教科内での授業観察、検証がなされたか。	C		
			5 コース制(3学年)、習熟度別授業の効果的運用がなされたか。	B		
	生徒指導	基本的生活習慣の定着	6 生徒の現在と将来を考えた身だしなみ等の適切な指導を心がけたか。	B	生徒達の服装の乱れ、問題行動もほとんどなく、落ち着いた雰囲気の中で生活できている。また毎日清掃活動に全員で取り組むなど、美化意識の向上に努めた。 学校行事については生徒会担当を中心に適切に計画され、生徒中心に実施され、満足度も高い。 教職員間では学年毎の生徒情報会議等を通して学習面、生活面、その他の情報の共有を図った。 ・生徒観察、生徒理解の精度を高め、さらなるいじめの未然防止に努める。 ・学校行事はより生徒に身につけさせたい力を意識し、生徒が主体的に計画、実施、反省のサイクルを確立できるようにする。 ・教師間の情報共有のため、より効率的に学年を超えて連携できるシステムを構築する。 ・教育相談についてはより効果的な手法、時期などについて検討し、研修を深める。	B
		いじめ防止	7 教育相談的な見地から生徒を観察し、いじめに対する意識の醸成に努めたか。	B		
		模範意識の向上	8 学校生活全般において生徒が利己的にならず、集団を意識した言動ができるように努めたか。	B		
		主体的な活動	9 生徒が主体的に儀式や行事に参画し、協力し合い、充実感と達成感を味わうことができる支援に努めたか。	B		
		教職員間の情報の共有	10 教員間の情報共有がスムーズに行えるよう図り、効率的に生徒情報を運用できたか。	C		
		校内外美化学習環境の充実	11 学習・生活の場としてふさわしいかを観察し、美化に努める生徒の育成に努めたか。	A		
進路指導	学年・分掌・教科間の連携	12 生徒の進路実現に向けて指導体制の充実を図るという点で、各学年・他分掌・各教科との連携が十分であったか。	C	進路指導部から適切な情報提供、個に応じた進路指導が行われていた。しかし、担任(学年団)と各教科との連携が不十分であった。 ・保護者対象の進路説明会を実施し、生徒の希望進路実現へ向けて共通認識を深める。 ・模試や講習を計画的に実施し、担任、学年と教科担当との連携をより密にしなが、継続的な学習へと結びつける。	B	
	個々に応じた進路指導の充実	13 生徒の個々の進路に応じた進路指導が適切であったか。	B			
	外部機関との連携	14 外部機関からの進路情報が十分に提供され、生徒の進路選択に寄与したか。	A			
健康安全指導	心身の健康安全意識の向上	15 健康診断を通じて生徒の健康状態を把握し、その対策を講じることができたか。	A	健康診断は計画通り実施され、生徒の実態把握に寄与することができた。インフルエンザの流行期においても適切に保健委員が活動できた。 ・より自己健康管理能力を高めるために、課題の多いスマートフォンの使用時間などの短縮や熱中症の防止などへの啓蒙活動を生徒が主体的に行えるよう支援する。	A	
		16 生徒の自己健康管理能力を高めるための指導がなされたか。	B			
学校運営	信頼される学校作り	開かれた学校作り	17 地域活動へ積極的に参加し、家庭・地域への積極的な情報発信がなされたか。	B	ホームページにより生徒の様子をできるだけ速やかに情報発信し、報道機関を通じて地域にも本校の様子を周知した。学習・進路ともに担任との面談等を通して生徒との意思疎通が図られ、個に応じた指導が図られた。毎週末や折に触れてコンプライアンスについては確認してきた。 ・行事等を通して地域の方々に来校を促し、より学校を知ってもらい、地域に愛される学校作りを図る。 ・進学希望者の必要に応じた学力向上のための教育課程の編成を行う。 ・引き続きコンプライアンス体制構築のため研修・面談を適切に行う。	B
		進路目標の確実な実現化	18 個に応じた手厚い指導の徹底がなされたか。	B		
		安心・安全な環境作り	19 危機管理体制の整備と意識改革がなされ、コンプライアンスの周知徹底がなされたか。	B		
	組織運営体制の充実	校内組織の活性化	20 目標の共有と協働意識の高揚が図れたか。	B	ミドルリーダー中心に適切に担当間で協議がなされ、組織的に業務を進めることができた。生徒募集に関しては、落ち着いた雰囲気の中で学習や部活動、学校行事に取り組み、町の支援などの魅力を伝えてきた。 ・教職員の材工時間を把握し、業務内容、分担の見直しを進め、勤務の適正化に努める。 ・学校の魅力化を推進し、中学校訪問、学校説明会や報道機関を活用し、その魅力を十分に発信する。	B
		教職員の組織・健康管理	21 教職員の業務の平準化、勤務時間の適正化が図れたか。	C		
		生徒募集体制の確立	22 生徒募集を加速させる学校の魅力化が図れたか。	B		
	学校教育力の向上	教職員の資質・能力の向上	23 計画的な授業参観、校内研修を実施し、また校外研修に参加することによって資質・能力の向上が図れたか。	B	計画的な校内研修により教職員としての研鑽を積み、授業改善に努めている。またイングリッシュキャンプ、グローバル人材育成キャンプなどへ生徒を派遣し、国際理解教育へ視野を広げることができた。 ・より英語を通じたコミュニケーション力向上のため放課後の英語クラブなどを実施していく。 ・地域創生学習は町や事業所の要望を把握し、より期待に応える活動となるよう改善する。 ・SDGsを取り入れ、より一層国際理解を深化させる。	B
		インクルーシブ教育の推進	24 生徒の個々の状況に応じた支援体制を取ることができたか。	B		
		グローバル人材の育成	25 国際理解教育の推進を図ることができたか。	B		
		地域教育力の有効活用	26 地域の団体等との情報交換及び連携を図ることができたか。	B		

学校関係者 自由記述(感想、要望、その他)欄
 ・有益な校内研修の取り組みを今後も継続してほしい。
 ・進路(地元就職)について十分な協議体制がある。
 ・目標のある生徒、またはない生徒への対応の熱心さを感じております。教育は子供たちだけに教育しても良い方向に向かないもので…家庭+学校+地域の連携により良い教育=良い社会ができると思っております。そのためには時代とともにどのようにすればよいのかというのがいつの時代も私たちの課題でもあります。